

自己肯定感

大人の皆さんは、誰しも子ども達には、夢や希望を持って、様々な事に挑戦し、失敗や挫折を繰り返しても、それを乗り越え前向きに生きて行く、そうした力を身に付けて欲しいと願っていると思います。

しかし現実はどうでしょうか。学校の成績や友達との関係、将来の進路等に悩みながらも、それぞれ夢を抱きながら頑張っている子ども達が沢山いる一方で、ニートや引き籠りといった様に、学習意欲や勤労意欲の低い青少年も少なくありません。

生きる事に積極的でない、新しい事にチャレンジしようとしめない、また、困難に対する抵抗力が弱い、こうした子ども達の様子を見ると、日本の将来に懸念を抱かざるを得ませんが、こうした子ども達に共通しているのは「自己肯定感」の低さではないかと思えます。

昨年8月に文部科学省が高校生の心の健康や勉強、学校生活、社会への参加意欲などについて調査していますが、それによると、日本の高校生は、米国や中国、韓国と比べ自己肯定感が低く、社会への影響力が低いと感じていることが明らかになっています。

この調査の中で、「自分自身をどう思うか」という設問に「私は価値のある人間だと思う」と回答したのは、日本が36.1%だったのに対して米国89.1%、中国87.7%、韓国36.1%となっており、日本の低さが際立っています。

また、「自分が優秀だと思う」と回答したのは、日本15.4%に対し、米国87.5%、中国67.0%、韓国46.8%となっていて、これはもう控えめという様な事では済まされません。

こうした、「自己肯定感」の低さは、子ども達に様々な問題を生じさせます。

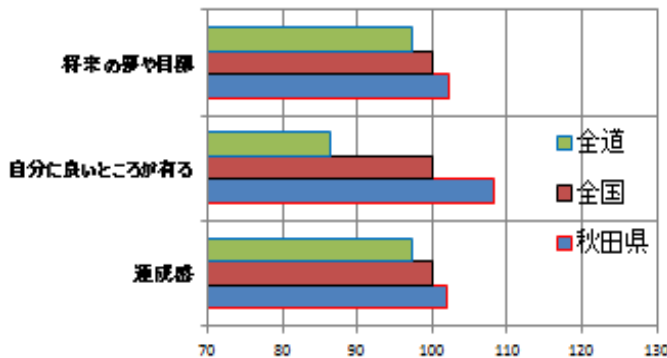
何ととっても、自分に自信が持てない為に、他者とコミュニケーションを取る事にも消極的になりがちです。また、「自己肯定感」が低い人は自分だけでなく、他者を受け入れる心のスペースも狭いように感じますし、「どうせ自分は受け入れてもらえない」とか、「自分には力がないからやれない」といったように、何事に対しても消極的で、その分、チャンスを逃す事も多いと思われれます。

この様に、「自己肯定感」は、単に自分を肯定的に評価するというだけでなく、むしろ子ども達の生きる力と直結する重要なものだといえるでしょう。

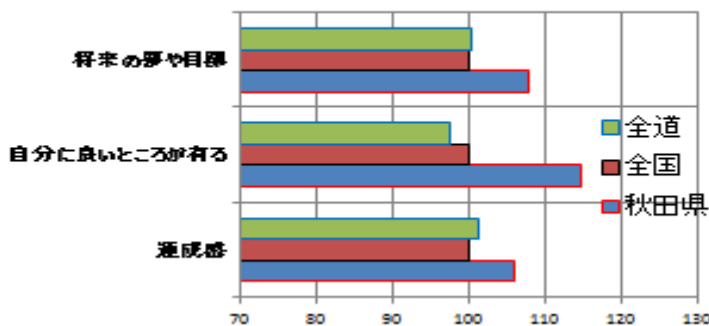
それでは、この「自己肯定感」について北海道の子ども達の意識はどうなっているのでしょうか。

文部科学省が毎年実施している学力調査における質問紙調査の結果を見ると、北海道の子ども達の様子が浮かび上がって来ます。

平成24年度全国学力調査(小学生質問紙調査)の結果から



平成24年度全国学力調査(中学生質問紙調査)の結果から



左表の上段は小学生について、下段は中学生について、それぞれ全国の子ども達、及び学力調査で毎回好成績を残している秋田県の子ども達と北海道の子ども達とを比較したものです。

これを見ると、北海道の子ども達の場合、「自分に良いところがある」と感じている子の割合が、秋田県と比べると明らかに低い事が分かります。この

「自己肯定感」の差は学力の差にも繋がっているのではないかと思います。

「自己肯定感」が低い子供は、自分に自信が持てません。何故なら、自信は「自分を信じる」事ですから、自分を肯定的に評価できなければ自信も生まれる筈はありません。

「どうせ自分には力がないから、やっても無駄」と思ってしまえば、勉強しようという意欲も湧いては来ないものです。

私は、「自己肯定感」は生きる力の根源だと思っていますので、その低さは、子ども達の将来にとっても大きな問題だと思っています。

それでは、どうすれば子ども達の「自己肯定感」を高める事が出来るのでしょうか。それは大変難しい問題ではありますが、「自己肯定感」は良好な人間関係の中で認められたり、頼りにされたりする経験を通して育つものだといわれていますので、家庭や学校はしっかり連携しながら、子ども達に、自分の良さに気付く事が出来るような機会を沢山与えて欲しいと思っています。

また、自分を否定的に捉え、自信が持てない子どもに対して、「自信を持て」というだけでは自信を持てる様になるとは思えません。様々な機会を通じて成功体験を持たせる事、「自分は役に立っている」、「必要とされている」と実感させる事が何よりも大切です。

私には娘が1人おりますが、彼女に対して私は良い父親ではなかったと思っています。子育ての一番大事な時期に、私は仕事人間で、厳しい父親を演じていました。彼女の素晴らしさに気付いていながら、それをちゃんと表現し伝えられなかった事を反省していますが、それでも今は結婚し、素敵な女性に成長してくれた事に感謝しています。

塾頭通信を使ってこんな事を告白するのは、少しずるかったでしょうか……。

(塾頭：吉田 洋一)